安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.19　2014.7.2
TEL62-4565

ともに学びあい ふれあう場として

第8回安曇野市公民館大会開催

5月18日、市公民館大会が豊科公民館ホールで開催され、公民館関係者をはじめ約400人が参加しました。

大会の中で、公民館活動功労者の表彰が行われ、次の5人が受賞しました。

▼元明科第一地区公民館長　湯口仁和　▼元大口沢地区公民館長　市川泉　▼元大口沢地区公民館長　宮澤貯治　▼元柏原地区公民館副館長　石井幸一　▼元北小倉地区公民館主事　中村文人（敬称略）

受賞者の皆さん

また、今回が初となる地区公民館報の表彰が行われました。受賞した公民館は次のとおりです。

▼最優秀賞　豊里地区公民館、矢原地区公民館

▼優秀賞　柏原地区公民館

入賞した公民館報は、大会中豊科公民館ロビーに掲示され、多くの人が熱心に見ていました。

また、宮本地区公民館と下堀地区公民館が事例発表を行い、地区の実態に合わせて工夫していることや、活動の様子を伝えました。

最優秀賞を受賞した「館報とよさと」

地区公民館報表彰 最優秀賞を受賞して

館報「とよさと」85号が平成25年度末の第1回安曇野市地区公民館報の審査会で最優秀賞に選出され、5月の第8回安曇野市公民館大会で表彰されました。新聞編集委員会を設けて今年度で10年目の節目でした。

委員会は区・公民館からの代表と有志による編成です。区の広報紙として、区・公民館・社協・育成会・区の各団体の皆さまから原稿や写真の提供に快く協力していただいたことによる受賞だと思います。

出来上がった新聞は豊里区民、特別区民や穂高公民館、市の穂高支所や他の公共場所にも配布しています。

穂高公民館に掲示してある多くの館報を見た区内外の知人から、「新聞とよさと」頑張っているね、と言われたときは「みんなが見ているから頑張るぞ」という気持ちでした。これからも豊里区の広報紙として、より多くの情報を発信していきたいと思います。

（館報「とよさと」編集委員長　今福千里）

記念講演

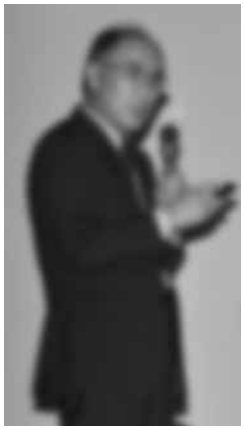
「公民館活動を通してのまちづくり、地域づくり」

金沢大学　地域連携推進センター生涯学習部門長　浅野 秀重 教授

【講演要旨】地域の課題解決に向け、公民館や地域コミュニティー等で様々な取り組みがされている。地域の防災対策や福祉のまちづくりに向けての取り組み。

地域社会には様々なタイプの人がいて、そういう人たちを束ねることにより、力となる。上から目線でなく、下からみんなで積み上げていくことが大切。公民館が事業展開することにより、コミュニティーづくりを図り、地域課題を少しでも変えていく。

『学び』は社会における学びというだけではなく、同時に社会を創る学びにもなっている」という思いで、学習事業、学習活動を捉えてほしい。学びは新しい自分づくり。何年間も積み上げてきた学びの結果が今の私たちではないか。人と出会い、人とつながりあう力、平和を守る力。めげたり、へこんだりしてもさらに歩みたい。そんな力を学びから得ていきたい。



絵：加々美　豊
花：ワレモコウ

楽しい菊作り講座

とよしな

ていねいに苗を植える

6月7日、豊科公民館主催の『楽しい菊作り講座』が開催された。全6回の2回目で、苗の植え付け方を座学と実習で学んだ。

講師は光菊花クラブの副会長、鈴木輝彦さん（写真左）。「気になるけんど、10日間は見なんでおくれ。水くれたくなるでね」と、ユーモアたっぷりの指導に、19人の参加者は笑顔いっぱい。

講座終了後には菊の苗が配られ、それぞれ自宅で鉢に植えられる。秋の菊花展へ向け、きれいな花が咲くよう毎日手入れがされるだろう。

熱い日の熱戦

あかしな

暑さを吹き飛ばす一打

6月1日、地区公民館対抗球技大会は、585人が参加して行われた。ソフトボールは2会場で熱戦が繰り広げられた。守備交代のわずかな時間を狙って、主審に水を持って駆け寄る職員も汗の中。龍門渕公園運動広場では北村地区、上押野河川敷グラウンドでは宮本地区が優勝した。

ワンバウンドふらばーるバレーボールは今年度初の競技試合が明科体育館で行われた。優勝は下押野地区。マレットゴルフは原地区が優勝した。

ほたか

芸大生と中学生の共演

6月8日、東京藝術大学と安曇野市中学校吹奏楽部合同コンサートが、改装されリニューアルした穂高会館講堂で開催された。

市内中学校吹奏楽部は、平成17年度より、同大学音楽学部学生の演奏指導を年3回受けている。1年間の成果発表として行われた。

プログラム最後に「カンタービレ・コレクション」を合同演奏

ほりがね

食事で健康づくり　家庭に食育

堀金公民館は、安曇野市調理師会の高橋清美さんと山口高司さんを講師に伝達料理講習会を開き、地区公民館の女性部の役員30人ほどが出席した。

手軽に作れる身近な料理として「東京深川名物アサリご飯」と「滑らかリッチなパンナコッタ」他4種類の副菜を学んだ。

地産地消と米飯推進で食の乱れを防ぎ、医食同源の教えとして、家庭の食育を考え、「健康な身体の源は毎日の食事」にあることを認識する機会となった。

堀金地域を小旅行

みさと

賀茂神社境内にて

三郷公民館は6月10日、千國温館長を講師に「ふるさと講座」を開いた。三郷地域以外の参加者も合わせ、市内の20人ほどが堀金地域の地理や歴史と文化を現地学習した。

日ごろ、付き合いの深い隣接地域について、新たな発見のある講座となった。

古きを尋ねて

⑭旧下長尾村庄屋・松岡家

三郷温の下長尾地区に、江戸時代、長く庄屋を務めた松岡家がある。松岡家は、古代孝元天皇の脈絡につながる飯田松岡城の系譜を持つ。戦後、家屋の一部を解体して柱を競売し、以前の1／3に縮小したが、敷地1300坪、間口10間、奥行14間の威容を誇る大邸宅である。

松本藩主の水野家が失墜して松平戸田家に代わった後の享保13（1728）年に下長尾村が成立し、庄屋が置かれた。松岡家は享保18（1735）年から明治2（1869）年に至る136年間、下長尾村の庄屋を務めている。越庄屋を務めた松岡家分家や中沢家も近隣に境を接し、見事な屋敷林を形成している。

戦前戦後を通し昭和の松岡家に生まれ育った現在の当主、多佳子さんは、記憶の糸を紐解いて、時代の背景を語った。子どもの頃の家は壁がなくて、ふすまや障子で仕切られた8畳間が幾部屋も続いていた。父が、壁のない部屋を嫌がって、後に押し入れを作った。

天保4（1833）年ごろ、松本藩の若殿、若姫が、小倉不動尊参詣や室山、黒沢の滝にたびたび足を運び、総勢70人ほどが松岡家庄屋宅にしばしば立ち寄り休息していた。その時のお礼に姫様に頂いたという土産が今も残されている。今になれば随分貴重な品物も、母は昭和の時代にかなり焼却していた。他にも天保と記された品々が多数見られる。

梅雨に煙る松岡家の屋敷林

私は一生懸命

働く女性をアロマテラピーで応援！

天野りさ さん（豊科高家）

アロマテラピー（アロマ）とは、植物の香りや様々な力を使って、体や心のトラブルを解消する自然療法。リラクセーションやストレスケア、健康増進や美容にも役立つと注目されている。

天野さんは「働く女性を応援したい。」「頑張っている自分を見つめ、認めてあげる時間と場所を提供したい。」「アロマの持つ、潜在意識に働きかける癒やしの力を伝えたい。」「けなげだけど強い、植物のパワーで心と体を癒やして、元気になってもらいたい。」そんな願いをもとに10年間のOL生活を経て、1年前にヒーリングサロンf（フォルテ＝イタリア語で『強い』という意味）を立ち上げた。お客さまの笑顔と、「りささんと出会えてよかった」という感謝の言葉に、勇気をもらう毎日。一人一人に合った、オリジナルアロマの調合が楽しくて仕方がないという。

サロンに来られる方だけでなく、もっと多くの人にアロマで元気になってもらいたいと、『アロマ空間プロデューサー』の資格も取得。香りの記憶が残る場所づくり、心地良い癒やしの空間づくり、ずっと居たい場所づくりに挑戦していきたいと、夢が膨らむ。

介護施設や医療機関などでもアロマが有効だそうで、患者さん、利用者さんはもちろん、過酷な仕事で頑張っているスタッフの皆さんを、アロマで応援できるとのこと。

頑張っている人、働く人全てが、元気に笑顔で楽しく毎日を過ごせるよう、これからもアロマを通じてみんなを応援していきたい。皆さんも一度、アロマの世界に触れてみませんか？

地区公民館だより

柏原地区公民館

柏原地区は、柏矢町駅周辺から穂高西小学校西の農免道路周辺に至る区域で、世帯数1639戸、人口4264人（5月1日現在）と、安曇野市で1番目に多い地区です。西には富士山に似た形の常念岳がそびえ、裾野の烏川渓谷の眺望が素晴らしい所です。

公民館活動は、『文化の香り高い街づくり、明るく健康で、絆あふれる住みよい街づくり』をスローガンに活動しています。

毎月B4版2ページの公民館報を発行し、隣組に加入している全戸へ配布しています。最近行った行事の様子や今後の予定を詳しく紹介しています。

年2回自然や歴史を学ぶ日帰りのバスの旅、県外へ大型バス2台による研修旅行、納涼祭、柏原地区内の14地区対抗ソフトボール大会とソフトバレーボール大会、運動会、文化祭、ふるさと講座や男性料理教室、女性部の講座など、区や地区社協と共催で開くなど、毎月何かが行われています。

運動会は穂高西小のグラウンドを借りて行い、それぞれの地区名が書かれた14個の大型テントが並び、応援団や選手でにぎわい、老人クラブ（常念クラブ）も招待されて楽しく交流します。

文化祭は2日間開き、1日目はプロ歌手を招待し「歌謡ショー」。最終日は新しく始めた「世代交流会」を開き、音楽・芸能の交流を中心に、祭囃子やピアノ演奏、独唱、手品、詩吟、踊りや津軽三味線など、子どもから父母、祖父母の皆さんが披露、鑑賞し、楽しみながら絆を深め大好評でした。

作品展には生け花や手芸品、絵画、書道、写真、骨董品、盆栽や山野草など数多く出展され、楽しく鑑賞させていただきました。

公民館の公的活動サークルは17あり、年間を通してみんなで楽しんでいます。

（柏原地区公民館長　中島清明）

第一回世代交流会

グループ紹介

明科音頭保存会

明科芸術文化協会に所属する明科音頭保存会（大月典彦会長）の22人の会員は、毎週木曜日の午後7時半から明科公民館で活動している。発足して27年になる。男性3人、女性19人、68～82歳の皆さんは、年齢を感じさせない身のこなしで、舞台を狭しとばかりに華やかさを添えながら練習に励んでいる。

音頭の作詞者、伊東静江（1902～80年）さんは七貴に住み、合併前には婦人会長を務めていた。歌詞ができて50年、振り付けは藤間流の家元に依頼して40年。安曇野市になっても「明科音頭」は踊り続けたい、と熱い気持ちを持っている。他に「恋の町明科」も踊る。作詞者は富家一（とみやはじめ）（35年～）さん。中川手在住。振り付けは藤間流の家元。リズミカルなテンポに世代を超えて口ずさめる。

指導する早川春枝さんは踊り歴65年、学生時代からだという。一時は6教室を持っていたが大病をし、会長職は辞したが指導は親切で厳しい。踊るときの着物は「あやめ」を模したものと、「ニジマスのうろこ」にヒントを得て作製したものとがある。

中国と交流のあったときは、踊りを通して親善を重ねたことを懐かしむ。

○入会歓迎　ご希望の方は、電話62・3391（会長大月まで）

年会費　1000円

色鮮やかな衣装で和気あいあいと踊る

欅

連日「この時期、過去最高の気温」という言葉を聞いている。かといえば、豪雨に雷、雹（ひょう）が降ったり、目まぐるしく気象状況が変化する。異常気象といえばそうだろうけれど、何が異常で何が正常なのか、すでに分からなくなってきている気がする。

エルニーニョ現象のうわさも聞く。夏は猛暑になるのか冷夏になるのか、またまた最高気温の更新になるのか…。信州でもクーラーは必需品になってしまうのだろうか。逆にクーラーが効きすぎて冷えに困ることも悩み。

K・T